

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0475401311
法人名	株式会社 インブルーブ
事業所名	グループホーム あったかいごこりやま
所在地 (電話番号)	〒982-0003 仙台市太白区郡山字石塚21-7 電話 022-308-8155
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2番8号 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年8月22日

## 【情報提供票より】20年 1月 29日)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 15 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	0 人
常勤換算	6.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／○改築
建物構造	木造	造り
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	○有( 100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 0 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 康庸会 中嶋病院 ・ アイボリー歯科クリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは仙台副都心長町に隣接し、住宅の密集した環境にある。建物は会社の寮を改装したもので1階入り口からエレベーターで直接2階に上がるようになっている。庭のスペースがなく玄関横には大きなウッドデッキがありプランターを置いて季節の花を植えたり、多用に活用しているとのこと。近くに小学校、コミュニティーセンター、老人福祉センターがあり、民生委員の協力の下、催し物やサロンに出かけることがある。管理者として日が浅いが開所当初から携わり入居者の状態をよく理解しており、一人一人に合わせたケアをするべく職員と一丸となって取り組もうとする姿勢が伝わってきた。地域住民との交流も定着しているのので行政側で勉強会を開く等働きかけを協力していただき「地域密着型サービス」の意義をより一層深く理解することで入居者がその地域で自分の家として安心して暮らせる事と思われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目として①基本検診は時間、労力を掛けて16名の方が市民検診を済ませている。2名は家族の同意が得られなかった。②事故報告書は職員が目を通し署名するようにした。第三者委員については民生委員の方をお願いするなど今後検討し取り組んでいく。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解しているが管理者は今回がはじめて取り組むことになり職員の意見を集約し取りまとめた。取り組む事で業務の振り返りとなり、各ユニットのリーダーと事後の対応について改善に向けた話し合いが行われた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年1月から2ヶ月に1回開催されている。議事録によると開催当初は意見もでて改善されている事も伺われたが開催の頻度も多く意見も出尽くし状況の報告が主となっている。今後の会議のあり方を検討し、より良い内容にすべく検討されていた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回家族会を開催、外出行事終了後、懇談会を開き意見等を聞く機会を設けているが、これまでに寄せられた意見、苦情は1件もない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民生委員の協力を得て回覧板を活用しホームの紹介をしたり、サロンに入居者を誘っていただいたりしている。事前に地域行事の予定を知らせていただいたり、近所との挨拶を大事にし、お茶のみに立ち寄ってくれることもあり近所付き合いも良好である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、地域で住み慣れ自分の家とさせていただけるようなホーム作りを目指し、それを支えていくサービスを掲げた事業所独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に掲げた理念に目をむけたり、定例会議で理念の振り返りをし、事後のサービスに向けた取り組みの話し合いが行われている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員の協力を得て回覧板に挨拶文やホームの紹介を掲載したり、庭に花が咲けば花見の誘いやお孫さんを連れてお茶のみに立ち寄ったり、地域行事に誘われたりと積極的に地元との交流を図っている。		
民生員					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員の意見を集約しまとめた。評価に携わるにあたり、各ユニットの振り返りとなり日常業務の統一性に欠けていることに気づきユニットリーダーと管理者で改善に向けた取り組みの話し合いが行なわれサービス向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年1月より2ヶ月に1回開催され、議事録に残されていた。開催当初は、意見も出たが会を重ねる事に状況の報告のみになっている。今後の開催にあたり同業者等に相談しあい目的に添った内容を検討したりしている。また、この地域は町内会長が不在であるが民生委員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情やサービスの取り組みの相談を市町村などの窓口で尋ねるがわからない。地域において認知症ケアの理解をしていただけるよう仙台市の方からも指導、協力をお願いしたい。	○	地域住民とは交流も出来てきているが、認知症ケアについての理解が乏しい。今後、行政と交流を持ち勉強会等を開き「地域密着型サービス」について仙台市の担当者から説明をしていただき地域に根ざしたホーム作りに取り組めるよう協力していただきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所便りに利用状況を添えて送付している。また家族の来訪時により詳しく状況をお話している。預り金は明細を家族に見せて承認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開き外出行事を行い、その後、懇談会を開き意見等を聞く機会を設けているがこれまでに寄せられた意見は1件もない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はないが昨年より離職者が相次ぎ、管理者もシフトに入る状態にあり人員不足に苦慮している。異動に関する情報は家族会などで報告している。入居者への配慮として新入職員には個々の状態把握を重視して行いケアに入るよう指導している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた外部研修に参加し、月1回の職員会議に研修の報告をし勉強会を開いている。そして実践に取り入れその成果を報告しあい、職員の能力に応じた指導をするなど取り組まれていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。同業者と管理者勉強会、模擬研修に参加し評価しあったり、情報交換をするなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学回数を多くしたり、希望に応じて体験入居の受け入れを行い入居者に慣れていただけるよう配慮している。また、入居前に利用されていた介護サービスのプランを参考に対応の継続をするなど工夫し取り組まれていた。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話から多くの事を引き出し、行事食(おせち、七草粥等)を教えていただいたり、掃除の際は入居者同士取り合う場面も見られるほど積極的に関わる姿も見られ、職員と共に支えあい生活されている様子がうかがえた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話を記録に留め、入居者の思いを行事にいれ、外出した際は入居前に住まれた家の近くまで行く事もある。また、入居者の不穏により対応に苦慮した時はカンファレンスを開き思いを捉えて対応を試みるなど工夫されている。		
利用者の要望					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前のサービスを受けていたプランを継続しつつ、日常の状態変化、本人、家族の意向を取り入れ介護計画に反映した計画が作成され、それを本人、家族に説明し同意をえている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直し、状態変化時は必要に応じカンファレンスを開き計画の変更を行い、本人、家族に説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出、外泊など入居者の状況や要望に応じ柔軟に対応し支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添い、医療機関を選択している。かかりつけの医療機関を継続している方が半数ほどいる。また往診の希望者には事前に書面を取り対応している。情報はそれぞれ定期的に医療機関に報告、状態変化時はその都度電話等で連絡し情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成19年4月に方針を固め、家族に説明すると皆様が希望されていた。その取り組みとして専門医療機関との連携、往診医師の確保、医師による職員への研修と準備を進めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人、家族より了解を得て馴染んだ名前の呼び方、親しみやすく方言で会話をしたり、汚れた衣類は居室で着替える事を徹底、記録なども所定の場所ですりプライバシーに配慮した取り組みがなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時より入居者のペースを尊重し、せかすことなく対応している。入居前の生活の様子、その日にどんな事をしたいか聞いたり、一人ひとりに合った対応を心がけ終日ゆったりと過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、食べたいものを入居者から聞き出し職員が作成している。時には、ワンプレートのお皿に盛り付けてバイキング方式や行事食を献立に取り入れ食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日時は設定せず、本人の要望に応じて実施している。入浴を拒む方へはタイミングを見ながらお誘いしているが対応に苦慮されているようで、今後も入浴を楽しめるような工夫をお願いしたい。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、食事の準備、味付け、後片付け、洗濯干し、掃除など時には張り合いになることもあるが出来る事をその方のペースに合わせている。また、希望者には近くの老人福祉センターの催し物や民生委員主催のサロンに参加されたり支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出し、近くの神社に散歩したり、園芸センターまでドライブに行きその帰りに食事をする等支援している、また、温かい季節には玄関横のウッドデッキでお茶をしたり、プランターに花を植えたりと外気に触れる機会を設けるなど工夫している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない意義の理解は全職員が理解している。1階にはセンサー、2階には鈴、1回出入り口を入ると直ぐエレベーターが有ることで安全対策として取り付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防隊を編成し、夜間を想定した訓練を年1回実施している。地域の協力体制が出来ていない為、町内会の総会で民生委員に口添えをしていただき協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事チェックを個別にし、月に1回体重を計るなど管理をしている。入居当時より体重が増えている入居者の声もあり、献立を見直し、食事量、バランスを栄養士に見ていただく事をお願いしたい。	○	入居者にとって食事は楽しみであり、体調管理に影響を与える。今後疾患による食事、水分の制限を余儀なくされる入居者が予想される為、栄養士の指導のもと献立を作成し取り組んでいただきたい。
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寮を改築した建物は心持ちコンパクトであり、区切られた間取りになっているが入居者がくつろぎやすく、装飾、調度品で工夫されている。死角が多いと話されていたが常に職員の見守りを怠らず対応しているとのこと。リビングの片隅に小上がりの和室があり、こたつで食事をされている入居者もいた。全体にゆったりとして温かくアットホームに感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口にはのれんが下がり、使い慣れた家具を持ち込んだり、思い出の写真を貼ったり、それぞれ居室作りをされていた。		